高崎市教育長賞

同じ人間

ある日のこと。私は飲食店で飲み物を注文しようとしました。その時、対応していただいた店員さんに一枚の紙を渡されました。そこにはこんなことが書いてありました。「私は耳が聞こえません」と。その紙を見るまで気がつかなかった私は驚きました。しかし、慌てつつも理解してメニューに指をさしながら注文を済ませると、店員さんは笑顔で「ありがとうございました」と手話をしました。手話のできない私でも温かい感謝の気持ちが伝わってきて、心を動かされました。明るい笑顔からは、元気をもらえました。

この時、店員さんと客という一瞬の関わりの中ですが強く感じたことがあります。それは、健常者と同じ人間であり何も変わりがないということです。障がい者をジロジロ見たり、傷を付ける言動をすることはよくないと前から思っていました。しかし、私たちと少しどこかが違うとも思っていました。それも人権侵害の一つであり、障がい者に深い傷をつけてしまうと感じました。私は、そんな考えを持っていたことを情けなく思ったと同時に、実際に会話をしたり気持ちを伝え合ったりすることの大切さも感じました。障がい者をかわいそうだと思う人も少なくないと思います。それは障がいがあると不自由で不幸なイメージが少しでもあり、それが世の中でも広まっているため、無意識に偏見を持ったり同情してしまっているからだと思います。けれど、短い間でも関わってみることで、障がい者に対する特別な意識は一瞬で消えていきます。様々な個性がある人々は、交流を通してみんな同じ人間なんだという考えが広がっていくといいなと思いました。

今年はオリンピックが開催されました。私はテレビで見てとても感動し、元気をもらいました。オリンピックの次はパラリンピックがあります。パラリンピックは手や足が不自由な人など様々な障がいを持っている人が出場します。体が思うように動かせないなか、スポーツをする姿は今大会も人々に感動を与えてくれるでしょう。もし私が障がいを持っていたら積極的に物事が行えないと思います。そんな私と違って明るく夢を持っている障がい者の方はたくさんいます。しかしそれは人一倍努力をして、自分の力で夢をつかもうと苦労を乗り越えてきたからだと思います。パラリンピックの舞台に立てていることは本当にすごいなと思いました。私はバレーボール部に所属しています。手が動かないとレシーブもできない、トスも上げられない、スパイクも打てない。足が動かないと高いジャンプもできない。ボールを追いかけることもできない。このようにできることが限られると考えてしまいます。こんなふうに考えず、自分ができること

を探し、そのできることを人一倍の努力で増やしていくことはとてもすごいことだと感じました。パラリンピックの選手は夢を諦めないことの大切さや、努力することの大切さを教えてくれていると思います。私も今まで以上にバレーボールを頑張りたいと思いました。

この作文を書いていて思ったことがあります。それは「障がい」というものは「個性」の一部にすぎないということです。障がい者も同じ人間。自分と違う個性を持っているだけです。私自身も自信を持って個性を発揮していきたいと思いました。私はオリンピックと同様にパラリンピックに出る選手も一生懸命応援します。私たちには障がいを持っている持っていない関係なく感情があります。幸せを感じたり夢を持ったりすることは生まれながらにして全員に与えられる権利なのです。世の中にいる人々は全員権利を持っているのです。そんな人権を尊重するために、思いやりを持って行動することが大切です。思いやりというのはただただ相手の行うことに手を出すのではないと思います。何をするべきか考えました。一つは、様々な個性がある中で気を使いすぎずにみんなに平等に接することです。変に気を使うと違和感を覚えてしまうと思います。もう一つ、笑顔で接することがとても大切だと思います。店員さんのように笑顔で接することは良い印象しか与えず、自分も相手も気持ちがいいです。みなさんはどんな対応をしますか。私はその場に応じて思いやりをしていきます。これからは、偏見を持たずに一人一人の個性を大切にして個性が豊かに溢れる世の中にしていきましょう。